

長沼地区河川防災ステーションについて

国土交通省 北陸地方整備局
千曲川河川事務所

長野市 河川課・復興推進特別対策室

河川防災ステーションとは

- 洪水等の発生時における河川管理施設保全活動及び緊急復旧活動の拠点として河川管理者が河川管理施設として整備しているもので、大半は水防センター(市町村等が水防活動を円滑に行う拠点)を併設しています。
- 河川防災ステーション(水防センター含む)は、平常時においても利活用のポテンシャルを有しており、すでにいくつかの施設で活用がなされています。

<災害時>

- 被災箇所の復旧工事のための材料備蓄
- 排水ポンプ車など災害対策車輛、防災ヘリの拠点
- 水防活動の拠点(水防団)



<平常時>

- 地域のコミュニティースペースとして活用
- 水防活動の訓練などに利用
- 防災学習の場や川の情報発信拠点として水防センターを活用
- 市と連携したその他の取組み



長沼地区河川防災ステーションの整備イメージ図(全体図:平常時)

■ワークショップでのご意見を踏まえた全体イメージパース図を国・長野市と連携し、作成。



長沼地区河川防災ステーションの整備イメージ図(拡大図・平常時利用状況)

- ① =土砂備蓄ヤードは多目的に利用可能な広場として整備し、平常時には開放。
- ②・③ =アプローチとして法面にスロープ・階段を設置。
- ④ =複合施設(長沼支所)、災害対策車輛庫を整備。
- ⑤・⑥ =復旧資材備蓄スペース。
天王宮は盛土上の現在位置に復元。



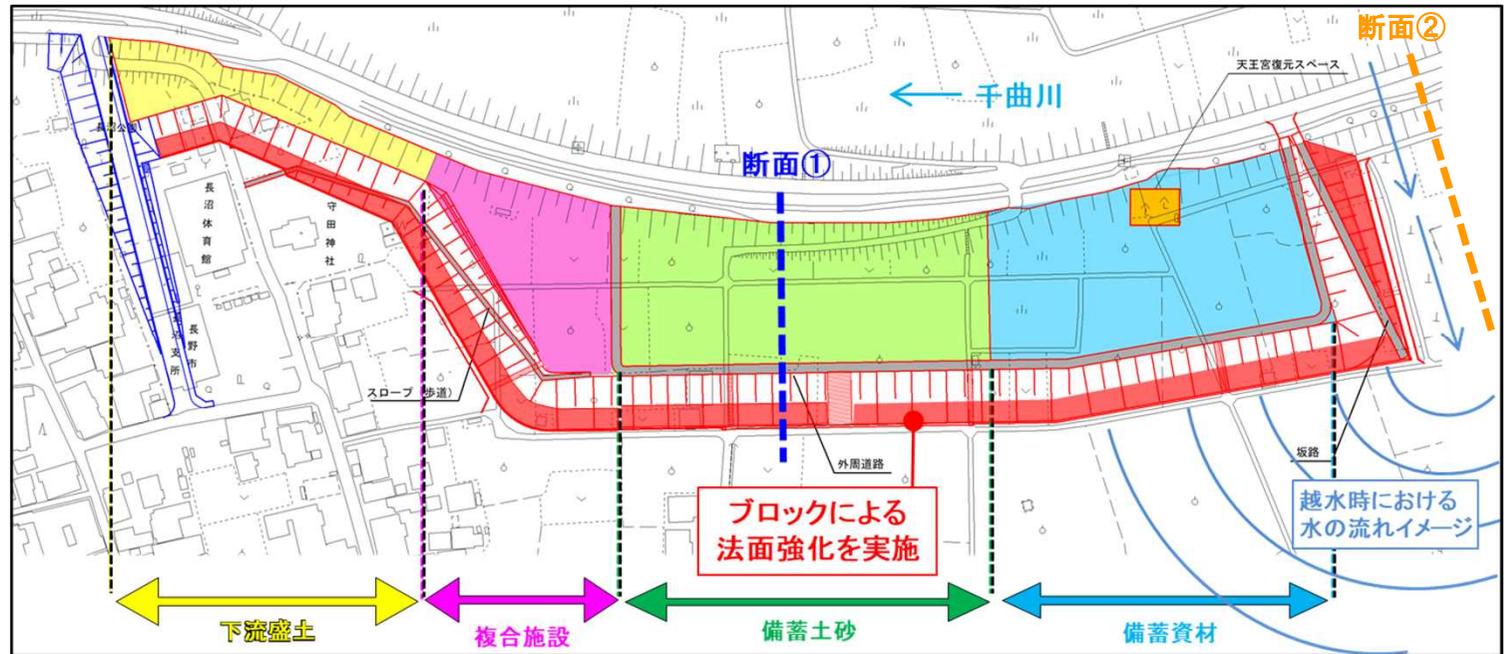
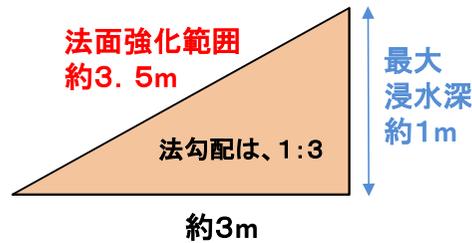
長沼地区河川防災ステーションの法面強化について(案)【法面強化範囲】

- 令和元年東日本台風規模の洪水は、緊急治水対策プロジェクトによる河道整備完了後において、越水はしない。それを超える規模の洪水(※)が発生した際に周辺堤防を乗り越え、流れる水深(浸水深)を考慮。
- 災害時における河川防災ステーションの機能を確保した上で、約3.5mの範囲でブロックによる法面強化を実施。

※河川整備の最終目標となる基本方針流量を想定(計画規模:1/100)

- 下流盛土エリア
- 複合施設エリア
- 備蓄土砂エリア
- 備蓄資機材エリア(基本的に平常時利用は不可)

整備範囲の考え方



断面①



断面②

河川整備の最終目標となる基本方針流量を想定し、流れる水深を確認。

